

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
尾道市立山波小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	1	1	2	2	2	10	4	14

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	5	2	5	10	
算数	6	2	5	10	

授業時数 計 20 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 20 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	B	A	推進	専科	D	A	B	C	S	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	A	推進	専科	D	B	B	C	S	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	B	A	推進	専科	D	C	B	C	C	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	B	A	推進	専科	D	D	B	C	C	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	29	A	6-2	社会	3	8.8	12.4	21.2
			5-1	社会	2.9			
			5-2	社会	2.9			
6-2	25	B	6-1	書写	1	11	12	23
			5-1	書写	1			
			5-2	書写	1			
			6-1	家庭	1.6			
			5-1	家庭	1.7			
			5-2	家庭	1.7			
			4-1	外国語活動	1			
			4-2	外国語活動	1			
3-1	外国語活動	1						
5-1	23	C	6-1	体育	2.6	9.8	14	23.8
			6-2	体育	2.6			
			5-2	体育	2.6			
			5-2	外国語	2			
5-2	25	D	6-1	音楽	1.4	9.3	10.8	20.1
			6-2	音楽	1.4			
			5-1	音楽	1.4			
			4-1	音楽	1.7			
			4-2	音楽	1.7			
3-1	音楽	1.7						

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<p>〈効果のあった取組〉</p> <p>① 算数科の基礎基本の学力に課題があるため、算数科の授業に熟達した教科担任制推進教員を配置し指導を行った。</p> <p>② 5・6年の担任以外に推進教員が指導を行うことで、4学級を5人の教職員できめ細かく一人一人を指導することができた。また学習規律をそろえることで学力向上のための土台を固めることにつながった。</p> <p>③ 学級担任外の教員と関わる時間を増やし、中学校の教科担任制へのスムーズな移行を図った。</p> <p>④ 教員一人が指導する教科数を減らすことで、教材研究により深く取り組むことができた。また、空き時間には他学年である中・低学年の授業にも出向き、若手教員の教科指導や生徒指導の支援を行った。</p> <p>⑤ 学校通信、学年通信、学校ホームページ等で教科担任制の取組を発信し、保護者理解を促進した。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>① 推進教員が担当する4クラスにおいて、2学期のまとめテストでは、5・6年の全クラスで平均正答率75%を超えること(89.1、85.7、85.0、86.9)ができた。また、30%未満の児童については1学期に全クラスで0%にすることを達成した。</p> <p>② 2学期に校内で実施したアンケートにおいて、自己肯定感に関する肯定的評価が6年生児童は92.2%であった。また、教師アンケート「⑥授業を担当している学級や児童に対して、組織的な生徒指導ができている。」では肯定的評価が96.2%であった。いずれも目標を達成することができた。</p> <p>③ 児童アンケート調査「⑤教科担任制で学ぶことで、いろいろな先生と話す機会が増えました。」の肯定的回答率は95%であった。また、教師アンケート「⑦中学校へのつながりを意識した授業を行っている。」の肯定的回答率は90%であった。いずれも、目標を達成することができた。</p> <p>④ 教師アンケート「⑧指導教科数の減少により、教材研究の時間の確保等、業務改善につながっている。」の肯定的回答率は2学期末で91.3%になり目標を達成することができた。</p> <p>⑤ 保護者アンケート「学校は、HP・学校だより・学年通信の定期的な発行により情報を積極的に発信していると思う。」の肯定的回答率は97.2%で非常に高い数値になった。保護者に対して、教科担任制の経緯や効果を発信することができた。また、「わが子は日々の授業に満足していると思う。」の肯定的回答率も95.3%で非常に高い数値となった。</p>
<p>〈課題〉</p> <p>① 算数科の教科担任が担当する4クラスにおいて、30%未満の児童については1学期に全クラスで0%にすることを達成したが、2学期は5年生1名が17.5%で達成できなかった。</p> <p>② 5年生児童の自己肯定感は1学期:82.3%、2学期:82.7%で目標値には届かなかった。</p> <p>③ 教師アンケートの肯定的回答率は90%で目標を達成しているが、この点は100%を目指すべきであった。</p> <p>④ 教科担任制が、単なる負担軽減ではなく、チームで授業改善や学級支援を目的とできるよう、教科担任制の質的な向上を目指す必要がある。</p> <p>⑤ 教科担任制導入当初は「指導が厳しい」といった不満も出ていたが、現在ではなくなっている。指導に対する信頼が続くように情報を継続して保護者へ発信していく必要がある。</p>	<p>〈対策〉</p> <p>① 当該児童は1学期は40%で達成できていた。しかし2学期は17.5%で、テストを受ける際の態度や集中力が整わなかった。普段から達成感を持たせ、なんとか正解にたどり着かせる経験を増やすとともに、集中力が継続するための手立てを継続していく必要がある。</p> <p>② 5年生児童の自己肯定感は、全体的には高いが、自己肯定感が下がっている児童が固定化している傾向にある。学級担任・教科担任がしっかりと個に関する情報を共有し、積極的に声掛けをして、自己肯定感を高めていく。</p> <p>③ 「中学校へのつながりを意識した授業を行っている。」ことを指導者が意識できるよう、校内における教科担任者会で教科担任制の目的を共有する。</p> <p>④ 教科担任制を行っていない低・中学年にも、教科担任制の効果が波及するよう、「他学年支援」を学校文化として定着させる。そのために、教科担任制の目的とその成果を学校全体でもしっかり共有する。</p> <p>⑤ 校内の教科担任者会で出された指導上の課題や悩みなどを定期的に保護者にも公開し、指導に対する信頼を高める。</p>